

# 医師不足病院における医師確保戦略 －飯山赤十字病院が医師確保できる ようになるまでの経緯－

石坂克彦<sup>†</sup>第73回国立病院総合医学会  
(2019年11月8日 於 名古屋)

IRYO Vol. 74 No. 11/12 (498-502) 2020

## 要旨

飯山赤十字病院（当院）が属する長野県北部の北信二次医療圏は医師偏在の影響を強く受ける医師不足地域である。当院は、急性期・回復期リハビリテーション・地域包括ケア・療養の各病棟を備える計284床のケアミックス型の病院であるが、大学医局が集約化の方針などから徐々に医師を引き上げ、2003年に33人いた常勤医師が2017年には19人にまで減少、一般外来と救急外来の受診制限を余儀なくされた。医業収益も悪化して連続で損失を計上するようになった。

診療内容の充実、収益の改善のためには常勤医師を確保することが最優先と考え、病院を挙げて医師確保に努めた。大学に医師派遣を依頼する、医師紹介会社への依頼、県の医師確保対策室との連携、長野県・飯山市の奨学金貸与で研修医確保などさまざまな対策を行ったが、2017年までは成果が出なかった。

危機感を強く持った2018年から医師確保を専任で行う担当者を配置して一定の裁量権を持たせたところ、紹介会社を介して2018年に4人、2019年に6人、計10人を確保でき、常勤医師が28人まで増加した。その結果、救急外来不応需の件数が大幅に減少、外来患者数と新入院患者数も増加し、病床利用率は90%以上になった。医療事業収支は2019年度末で約3億4000万円改善した。

予想外に多くの医師が確保できた要因としては、病院が新幹線飯山駅から至近距離にあるという地理的アドバンテージは大きいと思われた。大学からの医師確保は依然として重要だが、別の方策も検討すべきである。医師確保専任の担当者を配置し、紹介会社を有効に利用すれば効果は大いに期待できる。地域における自院の役割と今後のビジョンを熟慮したうえで、必要な医師を慎重に考えて紹介会社と相談すれば、マッチングする医師が見つかる可能性が高いと思われるが、若手医師確保の方策として、医学生や研修医に対する指導体制の構築や、臨床研究を行うことのできる環境を整備し勤務しながら社会人大学院生として大学で学位を取得できる体制づくりも重要である。

**キーワード** 医師不足, 医師偏在, 医師確保

飯山赤十字病院 †医師

著者連絡先：石坂克彦 飯山赤十字病院 院長 〒389-2295 長野県飯山市大字飯山226-1

e-mail : katu.isizaka@gmail.com

(2020年3月23日受付, 2020年11月13日受理)

The Present Situation of Uneven Distribution of Doctors and Strategy of Securing Doctors

Strategy for Securing Doctors in Hospital Lacking Physicians : The Process until the Iiyama Red Cross Hospital can Secure Doctors

Katsuhiko Ishizaka, Iiyama Red Cross Hospital

(Received Mar, 23, 2020, Accepted Nov. 13, 2020)

**Key Words** : shortage of doctors, uneven distribution of doctors, securing doctors